

令和8年度

岡山県立博物館協議会

第1回 開催要項

1 開会

2 展示室視察

3 議題

- (1) 令和8年度事業について
 - ア 展覧会
 - イ 教育普及事業
 - ウ 入館状況
- (2) 令和9年度展覧会計画（案）について
- (3) 長期展覧会計画（案）について
- (4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について
（令和7年度）
- (5) その他
 - ・ 来館者アンケート結果について

4 閉会

日 時 : 令和8年10月1日（木） 13:30～

会 場 : 岡山県立博物館 講堂

(1) 令和8年度事業について

ア 展覧会

令和8年8月25日現在

☆テーマ展

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
3/13～4/19 春季展 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(旅と行楽)	☆イロトリドリの備前焼 備前刀のいろいろ 三十六歌仙
4/24～6/7 初夏展 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(五月節句)	☆弘法寺 脚供養面 備前刀のいろいろ イロトリドリの備前焼
6/13～7/26 夏季展(1) 44(38)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(花ござ・麦稈真田)	☆奉納された刀と剣 美術 村の文書
7/31～9/13 夏季展(2) 44(38)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(船と折り・盆行事)	☆すすめ！ポンポン船～木造船の世界～ 奉納された刀と剣
9/18～11/23 特別展①・秋季展 67(58)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	特別展 宇喜多直家と秀家 ライバルとしのぎを削ったサムライたち
11/28～1/3 冬季展(1) 47(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(藁馬の民俗)	☆あこがれの京都 ～洛中洛外図を中心に～ 刀剣
1/9～3/7 特別展②・冬季展(2) 58(51)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗(藁馬の民俗)	特別展 桃山陶 備前焼から見たその展開と終焉
3/12～ 春季展 20～(17～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	☆テーマ展 江戸時代の交遊と文化(仮) 刀剣

〈展覧会内容〉

事業名	テーマ展「イロトリドリの備前焼」
期 間	令和8年3月13日(金)～4月19日(日)
趣 旨	一般的な備前焼のイメージとは異なり、鮮やかな色で彩られた「三十六歌仙置物」。岡山藩主であった池田家の蔵で大切に保管されていたこともあり、江戸時代に作られて以来、広く公開されたことはもちろん、すべてを紹介する写真もこれまでなかった。 本展では、彩色備前(絵具で着色した備前焼)の代表作と語り継がれながらも、いつしか行方がわからなくなり、研究者が探し求めていた「三十六歌仙置物」を、関連作品とともに紹介する。なお、全容がわかる状態で本作が公開されるのは、このたびが初めてとなる。
主要展示資料	備前焼(色彩備前) 三十六歌仙置物 備前焼(伝閑谷焼) 獅子置物 18世紀 岡山県立博物館蔵 備前焼(色彩備前) 東下り置物 18世紀 岡山県立博物館蔵 備前焼(色絵備前) 輪花皿 19世紀 岡山県立博物館蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 3/14(土)、3/28(土)、4/11(土)
備 考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室
成果・課題	初公開の貴重な作品を紹介したため、想定より取材を受ける機会が多かった。百人一首との関係を紹介したこともあり、備前焼に興味がなかった方からも好評を得た。 急遽開催が決まった展示であったため、作品の分析ができておらず、作品の詳細や特徴について解説することができなかった。

事業名	テーマ展「弘法寺 跣供養面」
期 間	令和8年4月24日(金)～6月7日(日)
趣 旨	瀬戸内市の弘法寺には、跣供養という行事が伝わる。これは、阿弥陀如来と菩薩たちが極楽浄土からこの世に亡くなる人を迎えに来る様子を、面や装束を着けた人々が演じるものである。このような行事は、迎講(むかえこう)などとも呼ばれる。平安時代に比叡山横川で始まったとされ、死後に極楽浄土へ往生することを願う人々の心を惹きつけて、全国で行われてきた。 本展では、弘法寺の跣供養で用いられた面とあわせて、来迎図や浄土曼荼羅なども紹介する。
主要展示資料	○行道面 弘法寺(瀬戸内市)蔵(東寿院管理) ◎阿弥陀二十五菩薩来迎図 遍明院(瀬戸内市)蔵 □阿弥陀三尊来迎図 遍明院(瀬戸内市)蔵 千手山弘法寺跣供養之図式版摺 岡山県立博物館蔵 ※◎重要文化財 ○岡山県指定重要文化財 □市町村指定文化財
関連行事等	学芸員による展示解説 5/2(土)、5/16(土)、5/30(土)
備 考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第4展示室
成果・課題	毎年5月5日に行われる弘法寺跣供養に合わせ、関連する文化財を取り上げて、紹介することができた。 期間中は展示総数の少なさや、サイネージの映像の分かりづらさを指摘する声が多かった。今後は、展示できる文化財の数を増やす、映像に場面解説をつけるなどの工夫をしたい。

事業名	テーマ展「奉納された刀と剣」
期 間	令和8年6月13日(土)～7月26日(日)
趣 旨	「奉納」とは、神仏のために品物を供えたり、踊りや武芸を披露したりすることである。祭礼行事の一環として取り組まれるほかに、個人の願いや感謝の思いを伝える目的でも行われる。刀や剣などの武器を奉納する習慣も古くからあり、奈良時代に成立した『日本書紀』にも、複数の場面で登場する。また刀剣は、祈願のため、あるいはご神宝や造営記念として、その多くが神社に奉納されてきた。 本展では、県内各地の神社に伝わる品々と、備後一宮・吉備津神社伝来の毛抜形太刀を展示し、様々な背景のもと奉納された刀剣について紹介する。
主要展示資料	○刀 銘 備前国長船住人横山上野大掾藤原祐定 /奉寄進於當国一宮大明神者也 寛文六丙午年正月十九日 寛文6年(1666) 吉備津彦神社(岡山市)蔵 ○大太刀 銘 備前国岡山住逸見竹貫斎源義隆 廿六歳刳物同作 /明治二辛未年冬十一月日 備中国甕江郷社於羽黒大神御前謹作之 明治4年(1871) 羽黒神社(倉敷市)蔵 ◎毛抜形太刀 銘 正光 南北朝時代(14世紀) 備後一宮・吉備津神社(広島県福山市)蔵 ※◎重要文化財 ○岡山県指定重要文化財
関連行事等	学芸員による展示解説 6/13(土)、7/4(土)、7/25(土)
備 考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第3展示室
成果・課題	これまでに展示する機会の少なかった刀剣を含め、県内を中心とする神社ゆかりの刀剣類を取り上げて、紹介することができた。 期間中は展示総数の少なさを指摘される機会が多かったため、今後は展示できる刀剣の数を増やす、作品数が少なくても満足できる構成を検討するなど、展示内容をさらに工夫したい。

事業名	テーマ展「すすめ！ポンポン船～木造船の世界～」		
期 間	令和8年7月31日(金)～9月13日(日)		
趣 旨	機帆船は、木造船が主力だった時代の最後を飾った船である。大正時代頃から瀬戸内海沿岸の物流で活躍し、独特のエンジン音から「ポンポン船」の愛称で親しまれつつも、戦後、鋼船の登場とともに徐々に姿を消した。古くから造船の町として知られる牛窓や玉島では、多くの船大工がその技術を振るい、機帆船をはじめ、千石船など海の船を数多く生み出してきた。 一方、内陸の河川や用水路では、高瀬舟や田舟が活躍するなど、岡山では地域ごとに特色ある船の文化が育まれてきた。本展では機帆船を中心に、岡山の木造船に関する資料を展示するとともに、船大工の技術や信仰について紹介する。		
主要展示資料	○若宮八幡宮奉納絵馬及び模型和船 住吉丸板図 機帆船「天神丸」模型 船大工道具	江戸時代 慶応元年 平成18年(2006) 昭和時代	若宮八幡宮蔵 笠岡市立郷土館蔵 個人蔵 個人蔵 ※○岡山県指定重要有形民俗文化財
関連行事等	学芸員による展示解説 8/8(土)、8/22(土)、9/5(土)		
備 考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第2・4展示室		
成果・課題	これまで紹介する機帆船を中心に、江戸時代からの木造和船の変遷と、船大工のわざや信仰について紹介することができた。展示資料に関連する映像や写真、焼玉エンジンの音を展示室で紹介したり、体験コーナーを設けたところ好評であった。 来館者からは、模型の内部まで見られるような照明と、大きな模型を見る際の子ども用の台があるとよいとの声があった。今後は、展示内容をさらに工夫したい。		

事業名	特別展「宇喜多直家と秀家 ライバルとしてのぎを削ったサムライたち」
期間	令和8年9月18日(金)～11月23日(月・祝)
趣旨	宇喜多直家は浦上氏の家臣だったが、1575年に浦上宗景を領国から追い出し、備前・美作のほとんどを手中に収める。直家は拠点岡山城へと移し、戦国時代を代表する武将として名を馳せる。 直家の跡を継いだ宇喜多秀家は、羽柴(豊臣)秀吉の支持を得ることで勢力を拡大し、秀吉の天下統一後は、五大老の1人として、豊臣政権のもとで重要な役割を果たす。なお、秀家の「秀」は、秀吉の名前から取られたものである。 1600年の関ヶ原の戦いの際、秀家は西軍として徳川家康率いる東軍と戦う。この時敗れた西軍の武将は、領地を没収されたり、移されたりして勢力を減らされる。秀家も領地を没収された上で、八丈島に流され、その地で亡くなった(享年84歳)。 本展では、備中三村氏や備前浦上氏をはじめ、宇喜多氏のライバルとしてのぎを削った武将たちの書状や刀剣類などを展示し、岡山を代表する戦国武将、宇喜多直家と秀家の一生を紹介する。
主要展示資料	□三村元親書状 天正 3(1575)年 3月 18日 高松市香南歴史民俗郷土館蔵 宇喜多直家書状 天正 8(1580)年 10月 個人蔵 □八郎制札 天正 10(1582)年 8月 6日 備前市教育委員会蔵 短刀 銘 来国次(名物 鳥飼来国次) 鎌倉時代(14世紀) (公財)黒川古文化研究所蔵 ○色々威二枚胴具足 江戸時代 加賀本多博物館蔵、石川県指定文化財 黒漆塗桐紋蒔絵鉄五枚胴具足 江戸時代 個人蔵 ※○県指定文化財 □市町村指定文化財
関連行事等	(1)記念講演会 10/4(日) (2)映像×コンサート 10/18(日) (3)甲冑着付け体験 9/26(土)、10/31(土) (4)学芸員による展示解説 9/19(土)、10/3(土)、10/24(土)、11/7(土)、11/21(土)
備考	入館料 一般460円、65歳以上230円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	テーマ展「あこがれの京都～洛中洛外図を中心に～」
期 間	令和8年11月28日(土)～令和9年1月3日(日)
趣 旨	京都の市街(洛中)と市外(洛外)を描いた洛中洛外図屏風は、まさに貴重な情報の宝庫であり、歴史や美術史以外の様々な方面からも研究され続けてきた。当館には、洛中洛外をテーマとした6曲1双屏風が2件所蔵されている。1件はスタンダードな構図の屏風、もう1件は金雲で区切られた約20の場面を華やかに描いた屏風である。2つの大画面に描き込まれた江戸時代の京都の様々な要素をじっくりとながめることで、都のにぎわいや歴史の流れに思いを馳せていただける展示となる。
主要展示資料	洛中洛外図屏風 紙本着色 江戸時代中期 各 170.0×378.0cm 洛中洛外遊楽図屏風 紙本着色 江戸時代後期 各 156.2×359.2cm
関連行事等	学芸員による展示解説 12/5(土)、12/12(土)
備 考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	特別展「桃山陶 備前焼から見たその展開と終焉」		
期 間	令和9年1月9日(土)～3月7日(日)		
趣 旨	備前焼は岡山県を代表するやきものである。基本的には釉薬を使わず、800年以上にもわたり生産が続いてきた。釉薬の使用が一般化した今では、このようなやきものはとても珍しく、国内だけではなく、海外からも高い関心を集める。芸術家の北大路魯山人は備前焼を、「無釉陶のなかでも、群を抜いて美しい」「土そのものが世界に類なきもの」とする。 桃山時代は、他の時期に類を見ない、躍動感あふれる形のやきものが作られた時代である。当時の流行を積極的に取り入れ、数々の優品を今に伝える備前は、各地で作られた桃山陶について考えるとき、基準となる産地として注目を集めてきた。 本展では、備前焼の研究成果に基づきながら、桃山陶の変遷を紹介すると同時に、その特徴や魅力について改めて考える。		
主要展示資料	○備前花瓶	1口 永禄12年(1569)	静岡寺光明院蔵
	○備前壺	1口 慶長15年(1610)	岡山後楽園蔵
	◎備前水指 銘 破家	1口 16-17世紀	北陸大学蔵
	◎信楽一重口水指 銘 柴庵	1口 16-17世紀	東京国立博物館蔵
	◎鼠志野鶴鴿文鉢	1口 16-17世紀	東京国立博物館蔵
	□黒織部茶碗	1口 17世紀	京都市蔵
	※◎重要文化財 ○岡山県指定重要文化財 □市指定有形文化財		
関連行事等	(1)記念講演会 1/10(日)		
	(2)記念座談会 2/14(日)		
	(3)学芸員による展示解説 1/9(土)、1/23(土)、2/6(土)、2/20(土)、3/6(土)		
備 考	入館料 一般460円、65歳以上230円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室		

事業名	テーマ展「江戸時代の交遊と文化」(仮)		
期間	令和9年3月12日(金)～		
趣旨	1700年代の後半以降、詩文や絵画を集め、さらには自ら創作する人たちが岡山でも数多く現れるようになる。戦乱のない世となって久しいこの時代に、人びとは広い関心やさまざまな趣味を持って互いに交流し、優れた作品を残したり、自らの考えや知見を深めたりした。そして、その交流は、全国的な広がりを持つとともに、ときに身分の壁をも飛び越えるものであった。 本展では、さまざまな趣味を持ち、各地の人びととつながりを持った岡山ゆかりの人物を取り上げ、残された手紙や作品などから、その交遊に迫る。		
主要展示資料	書状貼交屏風	江戸時代	個人蔵
	浦上玉堂筆南村訪雪図	江戸時代	岡山県立博物館蔵
	文人諸家貼交屏風	江戸時代	個人蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 3/13(土)、3/27(土)		
備考	入館料 一般260円、65歳以上130円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室		

イ 教育普及事業

事業名	ジュニア学芸員講座
期 間	令和8年8月5日(水)～8月7日(金)
概 要 等	県内の中高校生が、実物の文化財の取り扱いや調査など学芸員の基本的な仕事を体験することで、岡山の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、将来を考える機会を提供する。 ＜内容＞ 3日間の講義・実務・研修を行い、修了時に館発行の認定証を授与する。 1日目 開講式、文化財の取扱い(考古資料・陶磁器・民俗資料)、写真の撮影体験 2日目 文化財の取扱い体験(日本刀、美術) 3日目 文化財の取扱い体験(古文書)、展示物の解説作り体験、閉講式
参加者数	中学生 7名 高校生 14名 計 21名

事業名	館内授業・出前授業
期 間	通年(令和8年4月～令和9年3月)
概 要 等	館内授業は、県内の小中高生等が博物館で実物資料に触れたり、解説を聞きながら展示を見たりして学習する。出前授業は、学芸員が実物資料を持って直接学校へ出向き、各分野の授業を行う。また、学校へ体験資料の貸出を行う。 ＜授業テーマ例(学校からの要望に応じて対応)＞ 岡山の戦国時代 昔のくらしと道具のうつりかわり 備前焼 江戸時代の岡山の人々
実施校数	館内授業 14校(小4、中3、高2、大5) 自由見学 4校 出前授業 3校

※9月30日現在

ウ 入館状況

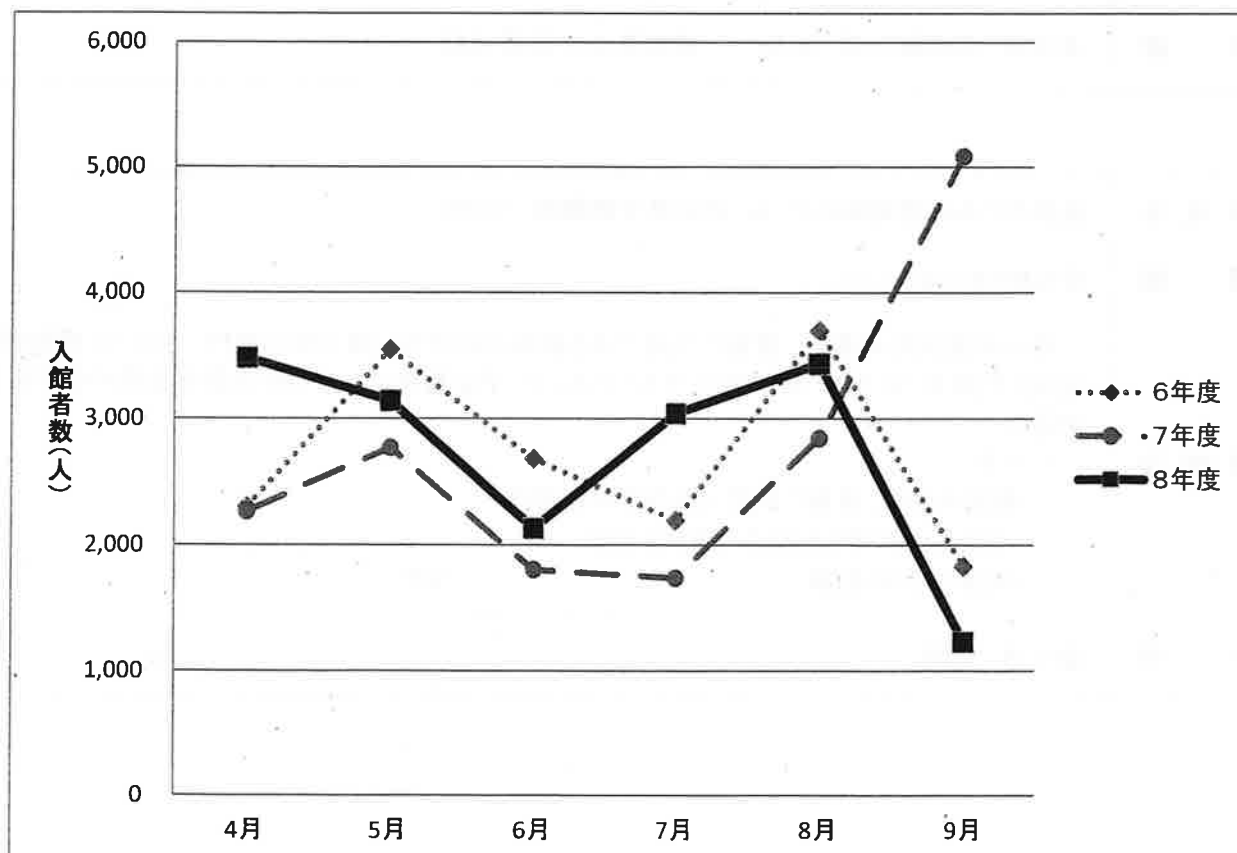
月別入館者数

令和8年9月13日現在

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	年計
6年度	特別展	-	-	-	-	-	-	-	18,734
	特別展以外	2,306	3,541	2,681	2,197	3,696	1,833	16,254	23,672
	計	2,306 (198)	3,541 (251)	2,681 (172)	2,197 (208)	3,696 (335)	1,833 (190)	16,254 (1,354)	42,406 (2,558)
7年度	特別展	-	-	-	-	-	-	-	23,635
	特別展以外	2,268	2,771	1,807	1,741	2,848	5,085	16,520	20,603
	計	2,268 (283)	2,771 (260)	1,807 (244)	1,741 (357)	2,848 (259)	5,085 (338)	16,520 (1,741)	44,238 (4,570)
8年度	特別展	-	-	-	-	-	-	-	-
	特別展以外	3,480	3,142	2,134	3,041	3,435	1,234	16,466	16,466
	計	3,480 (674)	3,142 (519)	2,134 (337)	3,041 (597)	3,435 (508)	1,234 (276)	16,466 (2,911)	16,466 (2,911)

※()は内外国人数



(2) 令和9年度展覧会計画(案)について

令和8年9月11日現在

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展) (美術・歴史・刀剣・備前焼・工芸)
3/12～4/18 春季展 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	テーマ展「江戸時代の交遊と文化」 刀剣
4/23～6/27 初夏展 58(49)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	テーマ展「近世絵画(仮)」 歴史 刀剣 備前焼
7/2～9/12 夏季展 73(63)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	テーマ展「備中高松城(仮)」 美術 刀剣 備前焼
9/17～10/17 秋季展(1) 31(27)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	テーマ展「刀剣(仮)」 歴史・美術 赤韋威と色々威
10/22～12/19 特別展①・秋季展(2) 59(51)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	特別展 紙上のながめー古地図の世界ー (仮)
12/24～3/5 特別展②・冬季展 73(59)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	特別展 備前焼・イロトリドリ (仮)
3/10～ 春季展 22～(18～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 岡山の民俗	テーマ展「民俗(仮)」 歴史・美術 刀剣 備前焼

〈特別展内容〉

事業名	特別展『紙上のながめー古地図の世界ー』(仮)
期 間	令和9年10月22日(金)～12月19日(日)
趣 旨	現代を生きる私たちにとって、地図はとても身近な存在である。スマートフォンの地図アプリを開けば、画面上に「正確」な地図が現れ、自分の住む地域にどのような道路が走っているか、さらには地球上のどこに自分がいるのかまで、すぐさまわかってしまう。 現代にいたる私たちと地図との関わりを考えたとき、多種多様な地図が作られ、より多くの人に地図が行き渡った江戸時代が注目される。この時代に、岡山では人びとが暮らした村や町などを描いた地図があちこちで作られた。さらには、北海道から九州までを旅した古川古松軒や、伊能忠敬の測量に一時随行した窪田浅五郎をはじめ、地図づくりの歴史に名を残す人びとが現れる。 このたびの展覧会では、江戸時代の古地図を中心に広く紹介し、当時の人びとが見た「ながめ」を古地図からひもとく、人びとと古地図との関わりを探る。併せて、地図づくりに身を投じた岡山の地理学者たちについても紹介する。
主要展示資料	松浦静山識日本輿地図 江戸時代・18世紀前半 広島県・広島県立歴史博物館蔵 ◎改正日本輿地路程全図 寛政3年(1791)版 茨城県・高萩市歴史民俗資料館蔵 ◎東海道歴紀州中国到越前沿海図下 年未詳 千葉県・伊能忠敬記念館蔵 ※◎国宝 ◎重要文化財
関連行事等	(1)記念講演会 (2)国土地理院「出前授業」(3)学芸員による展示解説
備 考	入館料 大人460円、65歳以上230円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	特別展『備前焼・イロドリドリ 伊部、彩色、白、閑谷』(仮)
期 間	令和9年12月24日(金)～ 令和10年3月6日(日)
趣 旨	800年以上にもわたり歴史が続き、岡山県を代表するやきものとして知られる備前焼。現代においては、釉薬(ガラス質の薄い皮膜)を使わない茶色のやきものという印象が強いかもしれない。しかし、江戸時代には、黒色や白色に発色する土を使ったり、釉薬を掛けたり、さらには絵の具で着色したりして、色彩の表現にも挑戦する。 このたびの展覧会では、一般的なイメージとは異なり、様々な「色」を取り入れた備前焼を紹介し、改めて備前焼の特徴や可能性について考える。 なお、2025年に約100年ぶりに存在が確認され、話題になった池田家旧蔵の「彩色備前 三十六歌仙置物」だが、所在がわからないままになっていた残り2点も昨年発見された。今回は三十六歌仙すべて揃った状態で展示する。
主要展示資料	彩色備前 三十六歌仙置物 備前(岡山) 18世紀 / 個人 彩色備前 東方朔置物 備前(岡山) 18世紀 / 個人 白備前 獅子置物 備前(岡山) 18世紀 / 林原美術館(岡山)
関連行事等	(1)記念講演会 (2)学芸員による展示解説
備 考	入館料 一般460円、65歳以上230円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

(3) 長期展覧会計画(案)について

年 度		特 別 展	
8	2026	宇喜多直家と秀家 ライバルとしてのぎを削ったサムライたち	桃山陶 備前焼から見たその展開と終焉
9	2027	紙上のながめー古地図の世界ー (仮)	備前焼・イロトリドリ(仮)
10	2028	岡山の涅槃図(仮)	正阿弥勝義(仮)
11	2029	岡山のかたち(仮)	調整中

(4) 第3次岡山県立博物館中期目標の達成状況について

中期目標の達成状況評価(令和7年度)

- (1) 評価の時期 翌年度初めに実施
 (2) 評価者 館全体で評価
 (3) 評価区分 次の1～5段階で実施

評価区分	内 容
5	目標水準を大きく上回った。 140%以上
4	目標水準を上回った。 110%以上 140%未満
3	概ね目標水準である。 90%以上 110%未満
2	目標水準を下回った。 60%以上 90%未満
1	目標水準を大きく下回った。 60%未満

(4) 結果の公表

評価結果は、「岡山県立博物館協議会」において報告するとともに、ホームページで公表する。

<参考> 博物館法第9条

博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

令和7年度の評価

項 目	H28	H29	H30	R元	R5	R6	R7
1 資料の収集と保存・活用	3	3	3	2	3	3	2
2 調 査 ・ 研 究	3	3	3	3	3	3	3
3 展 示	3	3	3	3	2	2	2
4 教育普及・学校教育との連携	3	3	3	3	2	3	3
5 県民参加の協働運営	3	3	3	3	3	3	3
6 施設の管理・運営	3	3	3	3	3	3	3
7 組 織 ・ 人 員	3	3	3	2	4	2	2
総 合 評 価	3	3	3	3	3	3	3

■資料の収集と保存・活用 R6:3 → R7:2

- ・テーマ展の開催回数が例年より少なかったことに加え、体制上の制約（人員不足等）により平常展の展示替えを十分に行えず、収蔵資料の展示数が減少した。

■展示 R6:2 → R7:2

- ・令和7年度の入館者数は44,238人となり、リニューアルオープン後最多を記録した一方で、目標値(50,000人)には届かなかった。

■組織・人員 R6:2 → R7:2

- ・展示替え等の館内業務と日程が重複したため、職員研修等への参加回数が減少した。

評価結果を踏まえた今後の課題と施策への反映

展示の充実

- 1 時代のニーズを踏まえ、幅広い人に満足いただけるわかりやすい展示テーマの設定
- 2 学芸員による対象別講座の開催や、実物の文化財に触れる体験ができる企画等の実施

学芸員の質の向上

- 1 学芸員が研修会へ参加しやすくなるよう、サポート体制の強化
- 2 研修会の参加機会を増やすため、様々な機関が実施している研修会の情報収集

評価シート

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和 9 年度)	令和 7 年度 実施結果	評価
資料収集と 保存・活用	資料の購入	資料の購入件数	必要に応じ 予算措置	0 件／年	－
	寄附資料の受け入れ	新規寄附資料の受け 入れ件数	随時申し出に に対応	66件／年	－
	寄託資料の受け入れ	新規寄託資料の受け 入れ件数	随時申し出に に対応	3 件／年	－
	資料の適切な保管	収蔵庫等の定期点検 回数	12回／年	12回／年	3
	展示室の資料保存環 境の点検	展示室等の定期点検 回数	50回／年	50回／年	3
	収蔵スペース確保の 検討	収蔵スペース確保の 検討	随時	随時	3
		整理・整頓	4 回／年	4 回／年	
	所蔵資料の補修	所蔵資料の修復 点数	1 点／年	0 点／年	1
資料の活用	収蔵資料展示点数	2,000点／年	904点／年	1	
	特別観覧利用件数	100件／年	73件／年	2	
平均評価					2
調査研究	調査研究活動の 強化	各学芸員の調査テー マの設定	6 件／年 (各学芸員 1 テーマ)	6 件／年 (各学芸員 1 テーマ)	3
	調査研究成果の 公表	研究報告の発刊	1 回／年	1 回／年	3
		年報の発刊	1 回／年	1 回／年	3
		博物館だよりの 発刊	1 回／年	1 回／年	3
		博物館講座の開催	6 回／年	4 回／年	2
	外部研究機関との 連携	共同研究テーマ数	2 件／年	2 件／年	3
	地域における資料保 存への支援	支援件数	2 件／年	13件／年	5
平均評価					3

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和 9 年度)	令和 7 年度 実施結果	評価
展 示	特別展	実施回数	2 回／年	2 回／年	3
	テーマ展	実施回数	随時	随時	—
	平常展	常設展示	通年	通年	—
	各展共通項目	総入館者数	50,000人／年	44,238人／年	2
		入館者の満足度	90％以上	85.8%	3
		記念講演会	1 回以上／ 1 展覧会	1 回以上／ 1 展覧会	3
		実演等	1 回以上／ 1 展覧会	1 回以上／ 1 展覧会	3
		展示解説	4 回以上／ 1 展覧会	3 回以上／ 1 展覧会	2
キャプション 解説シート	改善 30枚	10枚	1		
多言語表記 (名称・解説等)	英語・中国語・韓 国語表記	スマホ等の翻訳ア プリで対応			
平均評価					2
教育普及活動 ・ 学校教育との 連携	博物館講座	開設講座数	4講座(1班)／年	4講座(1班)／年	3
		参加受講者数	100人／年	92人／年	3
	体験学習	参加体験型資料の充 実	令和 9 年度末 40点	令和 7 年度末 44点	4
	館内授業	実施学校数	50校／年	38校／年	2
		受講児童生徒数	2,500人／年	1,162人／年	1
	出前講座	実施学校数	15校／年	8 校／年	1
		受講児童生徒数	1,000人／年	434人／年	1
	展示解説	聴講者数	20人／1解説日	61人／1解説日	5
	博物館実習	受入学生数	20人／年	18人／年	3
	中学生職場体験	受入学生数	10校／年	6校／年	2
教職員研修	連携事業の実施回数	2回／年	1 回／年	1	
ジュニア学芸員講座	受入生徒数	20人／年	16人／年	2	
オンライン講座	コンテンツ数	5コンテンツ／年	0 コンテンツ／年	1	

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和9年度)	令和7年度 実施結果	評価
教育普及活動 学校教育との 連携	大学教育との連携	受講する学生数	100人／年	209人／年	5
	外部への講師派遣	派遣回数	15回／年	21回／年	5
平均評価					3
県民参加の 協働運営	広報活動の充実	記者クラブへの 資料提供件数	30件／年	26件／年	2
		マスコミ取材件数 (新聞掲載件数)	250件／年	95件／年	1
	アンケートの実施	アンケートの回収率	10％／年	9.8％／年	3
	ホームページ等の充 実	H P アクセス数	200,000件／年	205,941件／年	3
		S N S の更新頻度	週2回以上	週2回	3
	岡山県立博物館友の 会の会員数の増加と 事業の充実	友の会会員数	400人／年	240人／年	2
		会員の継続率	前年会員の90％	前年会員の84％	3
		友の会事業実施回数	40回以上	61回	5
		特別展等観覧者率	4.0％	2.5％	2
		支援ボランティア	10回／年	10回／年	3
			30人以上／年	89人／年	5
	地域社会と協働の 展覧会の開催	共催団体数	1展覧会2団体 以上	1展覧会2団体	3
		連携博物館数	2博物館／年	2博物館／年	3
	博物館協議会等の意 見の反映	協議会開催回数	2回／年	2回／年	3
		外部評価の実施	1回／年	1回／年	3
	岡山カルチャーゾーン 連絡協議会との連携	連携（加盟）施設数 (県立博物館を除く)	11施設	11施設	3
平均評価					3

目標項目		評価指標	中期目標値 (令和9年度)	令和7年度 実施結果	評価
施設の整備 管理	安全な施設の維持 管理	個別施設計画	緊急性の高い事 案から着手	緊急性の高い事 案から着手	—
	外国人来館者への 配慮	案内板の多言語表記 の充実	中国語・韓国語 への対応	中国語・韓国語 への対応	—
	危機管理体制の強化	来館者事故数	0件／年	0件／年	3
		防災訓練の実施	年2回開催	年2回開催	3
		安全衛生会議の開催	年3回開催	年3回開催	3
	利用環境の向上	入館者の満足度	90%以上	85.7%	3
平均評価					3
組織・人員	学芸員の資質向上	研修会への参加人数	10件／年	8件／年	2
平均評価					2
総合評価					3

令和7年度 来館者アンケート集計結果

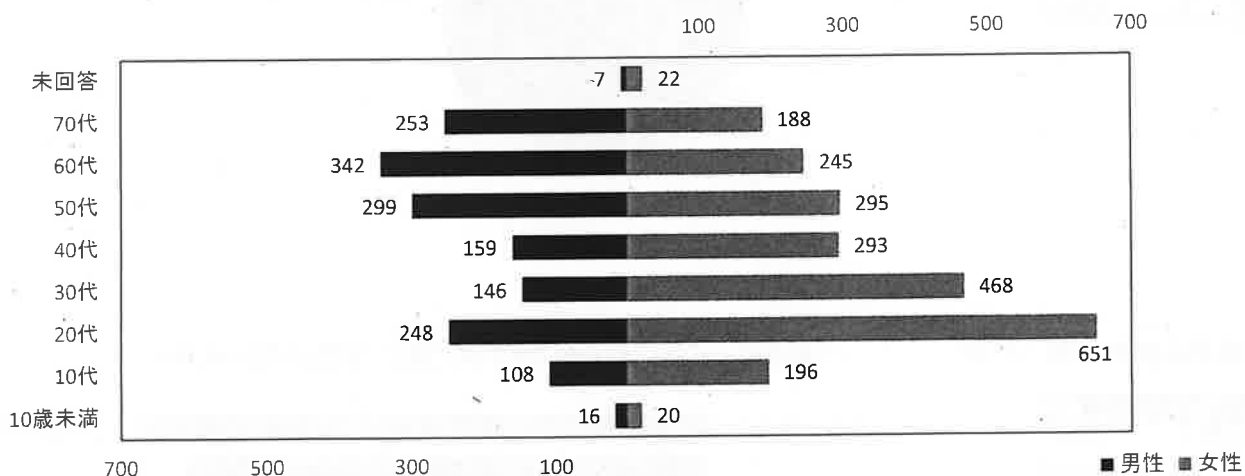
◆アンケート回収率

展覧会名	会期	入館者数	アンケート数	回収率
注文打ち～武将のために作られた刀～	4/1～5/6	3,280	446	13.6%
学び、つながる江戸時代の人びと	5/11～6/29	3,566	310	8.7%
やきものの見方 備前焼から	7/3～8/24	3,670	374	10.2%
吉備津神社	8/28～10/5	7,275	981	13.5%
【特別展】花ござ 心おどるい草の世界	10/10～11/23	12,202	1,092	8.9%
【特別展】岡山の文化と出会うー宗教美術から超絶技巧までー	11/28～3/8	11,451	853	7.4%
イロトリドリの備前焼	3/13～3/31(4/19)	2,794	275	9.8%
合 計		44,238	4,331	9.8%

◆年齢構成

性別	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答	性別合計
男性	16	108	248	146	159	299	342	253	7	1,578
女性	20	196	651	468	293	295	245	188	22	2,378
未回答	3	26	54	32	24	53	69	100	14	375
合 計	39	330	953	646	476	647	656	541	43	4,331

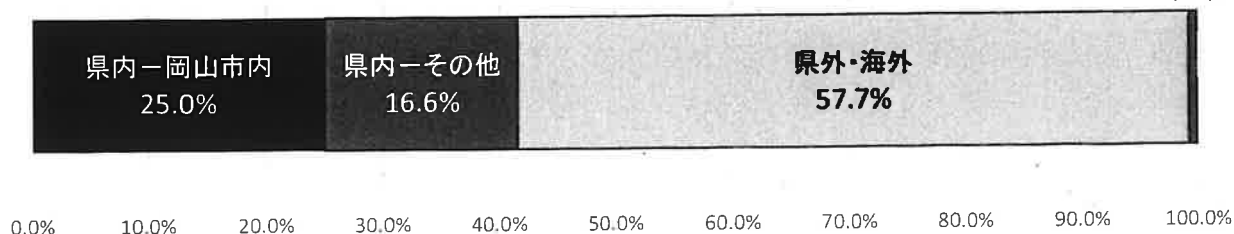
女性は20代～30代、男性は50代～60代が中心



◆住所地一覧

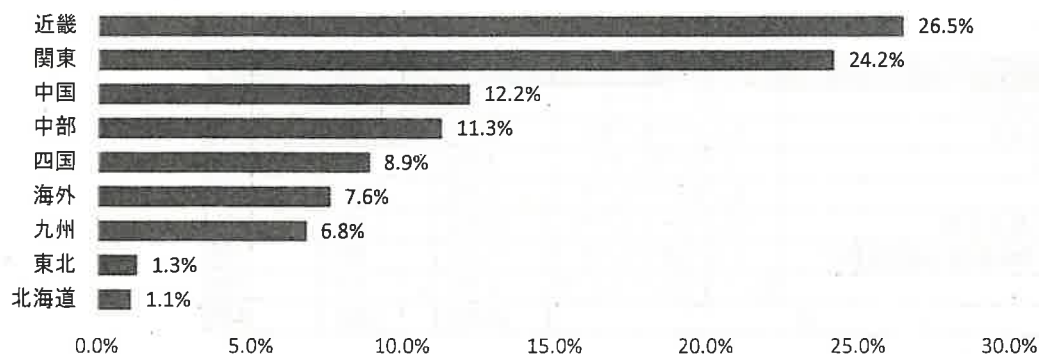
住所地	県内 -岡山市内	県内 -その他	県外・海外	未回答	合 計
来館者数	1,083	719	2,498	31	4,331

未回答
0.7%



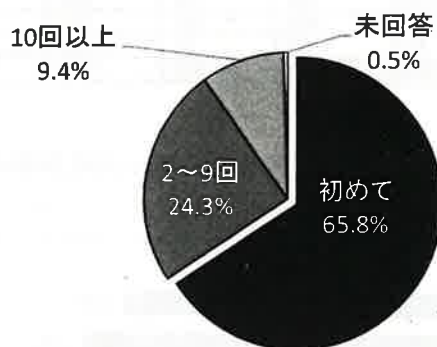
◆県外地方別一覧

地方	中国	四国	近畿	九州	中部	関東	東北	北海道	海外	合計
来館者数	305	222	662	170	283	604	33	28	191	2,498



◆当館への来館回数

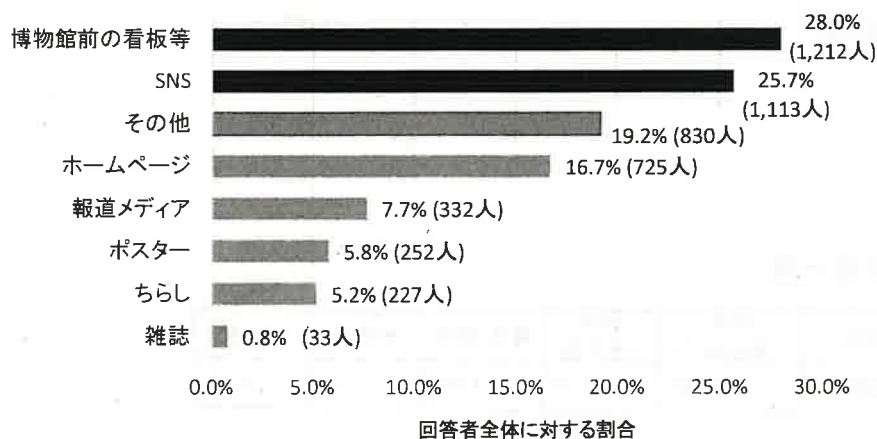
来館回数	回答数
10回以上	408
2～9回	1,051
初めて	2,851
未回答	21
合計	4,331



◆この展覧会を何で知ったか

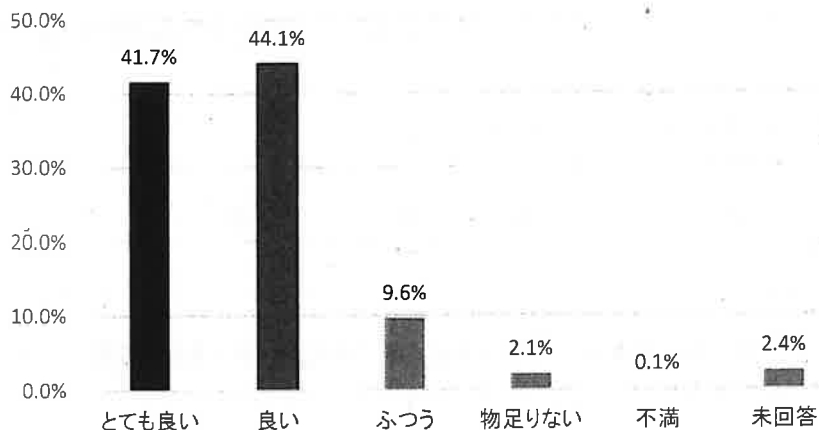
「看板等」と「SNS」が全体の2割強で最多(複数回答/n=4,331)

広報媒体	回答数
博物館前の看板等	1,212
ホームページ	725
SNS	1,113
報道メディア	332
雑誌	33
ポスター	252
ちらし	227
その他	830
合計	4,724



◆今回の展覧会についての感想

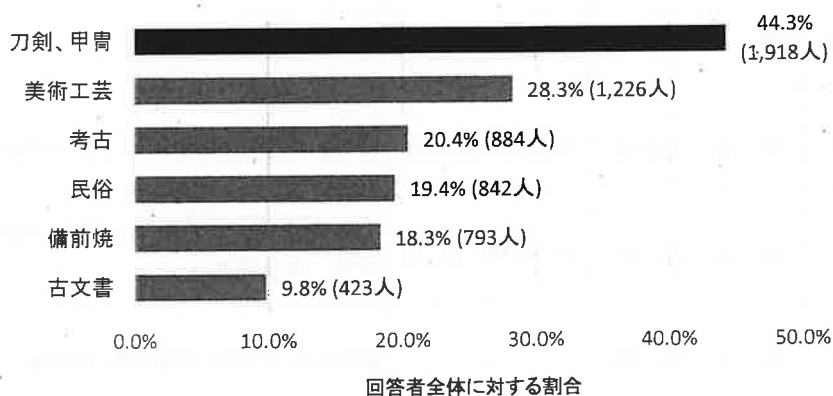
感想	回答数
とても良い	1,805
良い	1,910
ふつう	416
物足りない	89
不満	6
未回答	105
合計	4,331



◆今後どのような展覧会を希望するか

希望分野	回答数
考古	884
美術工芸	1,226
古文書	423
民俗	842
刀剣、甲冑	1,918
備前焼	793
合計	6,086

「刀剣、甲冑」が44.3%で圧倒的1位(複数回答/n=4,331)



<博物館への意見>

- 学芸員の方の展示解説が分かりやすく、楽しめました。
- デジタル画面で作品の細かい部分を見ることができてよかった。
- OVR・AR、展示方法を変えるなど、体験コーナーや記念写真コーナーがあるとよい。
- 順路がわかりづらい。
- 他にはないオリジナルグッズを増やしてほしい。
- アンケートはスマホ等で回答できるようにしてほしい。

岡山県立博物館協議会委員

任期2年（令和7年2月5日～令和9年2月4日）

令和8年10月1日現在

番号	氏名	区分	現職	就任年月	備考
1	仲原美代子	学校教育関係者	備前市立日生東小学校長	R 7. 2	
2	忠政勇之	"	美作市立美作中学校長	R 4. 5	
3	辻田詔子	"	県立総社南高等学校長	R 5. 2	
4	細川誠	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	R 8. 4	
5	明楽香織	"	NPO 法人らんとん職員	R 5. 2	
6	美咲美佐子	家庭教育関係者	NPO 法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	青山昌史	学識経験者	公益社団法人 おかやま観光コンベンション協会 事務局長	R 7. 2	
8	岡野英美	"	NPO 法人 ENNOVA OKAYAMA 正会員	H29. 2	
9	富山明寿	"	小倉産業（株）代表取締役社長	R 7. 2	
10	大久保範子	"	岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授	R 7. 2	
11	三田智子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科 准教授	H31. 2	
12	伊勢崎晃一郎	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	島村啓司	"	RSK 山陽放送（株）総務局財務部長	R 8. 6	
14	宗宮正行	"	（株）山陽新聞社編集局文化部長	R 8. 9	
15	烏井良輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

岡山県立博物館協議会条例

昭和46年6月25日
岡山県条例第47号

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。

2 (略)

岡山県立博物館協議会運営規則

昭和46年7月1日
岡山県教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例（昭和46年岡山県条例第47号）第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議（以下「会議」という。）に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表决)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べるができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

職 員 一 覧

教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文化財課長	加 藤 芳 寛	

岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	江 草 大 作	
副 館 長	内 池 英 樹	(学芸課長事務取扱)
総 務 課	課 長	坂 本 恵
	副 参 事	栗 原 宏 之
	主 幹	市 場 あ や
	主 事	株屋根 睦 生
学 芸 課	学芸員(副参事)	重 根 弘 和
	学芸員(主任)	松 井 今 日 子
	学芸員(主任)	岡 崎 有 紀 育休
	学 芸 員	平 田 良 行
	学 芸 員	馬 野 琴 巳
	学 芸 員	山 本 宏 美
	主 事	中 村 麻 里 子 育休代員